

アジア太平洋の人をつなぎ学びを育てる

# ACCU news

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

特集1 SMILE Asiaプロジェクト

読み書きの力で女性に力を!.....2

特集2 20周年を迎えた日韓交流を振り返って.....8

Pick up Information.....10

活動メモ.....11

ACCU INFORMATION.....11

No. **411**  
2020年6月号



 **ACCU**  
Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 発行

**50<sup>th</sup>**  
**ACCU**  
Since 1971

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

# 読み書きの力で女性に力を!

## SMILE Asiaプロジェクト Supporting Maternal and Child Health Improvement and Building Literate Environments

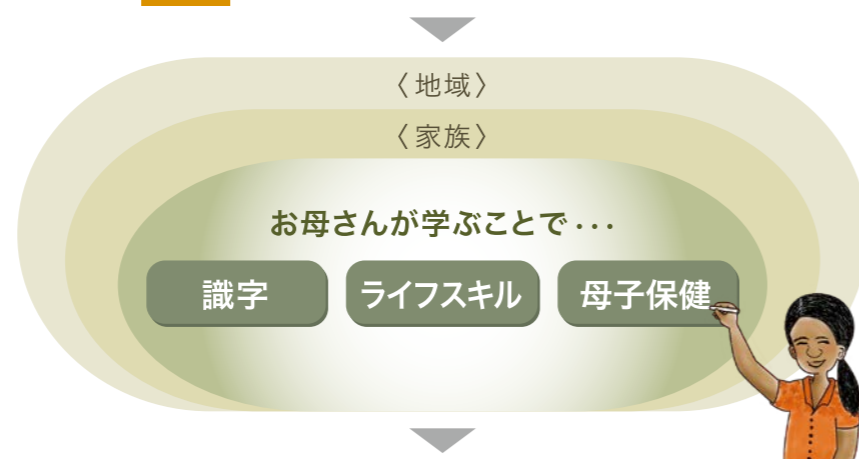
母子保健をテーマにしたACCUの識字教育支援SMILE Asiaプロジェクト。この2月、進捗状況やプロジェクトの成果、課題確認のためカンボジアを訪れました。長年ACCUが取り組んできた識字事業とは何か? ご支援の裏を現地視察の生のレポートにてたっぷりご紹介したいと思います。

### SMILE Asiaプロジェクトとは?

SMILE Asiaプロジェクト (SMILE) は、妊婦さんや小さなお子さんを育てている女性を対象とした識字学習支援プロジェクトです。2007年にアジア太平洋地域のモデル事業として6か国の政府および非政府系パートナー団体によって展開され、それ以降、カンボジアでは、ACCUと現地NGOであるCWDA (Cambodia Women's Development Association) との緊密な連携のもとで、現在に至るまで継続的に実施されています。具体的には、読み書き計算や保健に係る知識、ライフスキル学習の機会を提供することで、女性のエンパワーメントを促進し、さらには家庭と地域の教育・保健環境をより良くしていくことを目指しています。



### SMILE Asia プロジェクト



“ 家族が変わり、地域が変わる。”



学習キット



読書コーナー

カンボジアでは毎年60～75名の学習者がSMILEに参加し、1クラスあたり15名前後の仲間たちと8～9か月共に学びます。クラス開講時に受け取る学習キットには教科書、クメール語のアルファベット表、筆記具類、自宅学習用の読み物のほか、石鹸やタオルなども揃えられ、読み書きの学習と同時に保健や衛生に関わる実践学習の準備も整えられています。また、学習キットと同時に支給される「SMILEバッグ」を保健センター利用時に学習者が持参すると、診察費免除や交通費補助などの便宜を受けることができます。それにより、保健センター利用のハードルが下がり、母子共に適切な保健サービスへのアクセスが習慣として身につくようになりました。



SMILEの活動は現地の様々な人たちの協力によって支えられています。こちらに一部をご紹介します。

### 学習者や現地関係者からの信頼も厚い SMILE のお母さんの存在!

フン・パナさん  
Hun Phanna  
CWDA代表



母親が識字能力を身につけることは、その子どもの基本的な健康管理や保健サービスへのアクセスが向上し、家族や未来の世代のための健全な家庭・地域環境を整えることにつながっていきます。実際にSMILEでは、毎年、知識の習得にとどまらない様々な行動変容が実現しています!

現地協力NGO代表として、長年SMILEの全体統括を担ってくれています。現在68歳とご高齢ながら女性を応援したい気持ちとパワーに溢れ、片道2時間半の村への移動をものともせず、どの村の関係者からの信頼も本当に厚いスーパーウーマンです。

こちらでご紹介の2名に加え、毎年、クラスの開講される村からは、ファシリテーターと呼ばれる先生が選出され、開講前と期間中に指導者研修を受けて学習の指導にあたります。授業についていけない、あるいは仕事のためにクラスを休みがちな学習者に対しては、自宅訪問でフォローするなど、村内の人材ならではの

のキメの細かい学習支援を行います。また、村長はファシリテーターの推薦とクラス運営全般を後方支援し、地区運営委員会からは女性局職員が派遣され、学習の進捗管理や学習者の心理的サポートを行ったり、ときには「保育士さん」として子ども連れでクラスに通うお母さんの応援をしたりしています。保健局ではセ

### 州政府の立場から SMILE を支援してくれる力強い存在です!

メス・セレイさん  
Meth Serey  
コンボンスプー州教育事務所  
ノンフォーマル教育局長



SMILEは読み書きのできない女性たちに生涯学習の機会を提供してくれる大変重要なプロジェクトであり、共に仕事ができることを我々はいつも嬉しく思っています。州民代表として、ACCUのSMILEプロジェクトに心より感謝いたします。これからもコンボンスプーでSMILEが続くことを祈ります。

2013年からSMILEが実施されているコンボンスプー州教育事務所で、学校外の教育を担当する局長さん。公的サービスの行き届かない地域や村で活動を展開するSMILEを非常に大切に思い、指導教材の提供や研修会への参加など、技術面から様々な支援を提供してくれています。

ンター利用にあたっての便宜供与のほかに、月一回の実践学習に講師を派遣し、保健と衛生に関わる指導を行っています。沢山の方々に応援されて、学習者の皆さんは日々子育てをしながら、仕事、そして勉強も頑張っています!

## 識字を身につけたことで夢が叶いました!

家の仕事を手伝えるために小学4年生で学校を辞め、それ以来勉強する機会はなくなりました。17歳で結婚し、2人の子どもを育てながら農業や牛の世話などで生計を立ててきました。村で他の人が商売をしているのをうらやましく思っていました。読み書き計算ができないのであきらめていました。

SMILEの識字クラスでは、特に保健衛生の授業が心に残っています。今でも当時の教材で病気の際の対処方法などを復習することがあります。読み書きと保健の勉強を同時にするのは大変でしたが、時間を見つけて家でも自習するなどして

頑張りました。

識字を身につけたことで、念願の商売を始めました。お米を仕入れて保管し、必要な時に精米して村の人たちに売ったり、精米機をレンタルしたりしています。日々帳簿をつけるのにSMILEでの学習が役立っています。商売は順調で、息子夫婦の家も新築しました!

その他にも、光熱費の請求書を確認したり、村の付き合いで結婚式のご祝儀のやり取りを記録したり、毎日の生活で読み書き計算の力がとても役に立っています。



2016年SMILE識字クラス受講者

### ホワン・サビーさん

Hoeung Savy  
40歳、二児の母  
ブレイ・ヴィブ (Prey Veav) 村

## 2012年SMILE識字クラス受講者

### セン・ナレーさん

Seng Nareth  
46歳、3児の母  
クレン・クルッチ (Kraing Krouch) 村



## SMILEのお陰で教育の大切さを学びました

私は子どものとき、8年間学校に通いました。文字は大体読めましたが、復習したいと思ってSMILEを受講することにしました。クラスでは、読み書き以外に健康のことなど新しい知識もたくさん得られたのがよかったです。比較的読み書きの勉強は容易にできたので、クラスメートに教えたりもしていました。

SMILEに参加したことで大きな変化が二つありました。一つめは、商売を始め、貧しかった生活が向上したことです。近所の大きな工場で、飲料などを扱う従業員向けの売店を営んでいます。商売が

軌道に乗ったので、商品の輸送に使う大型トラックも購入したんですよ! トラックはときどき工場に貸して、レンタル料収入も得ています。

二つめは、教育の大切さに気づき、我が子の教育を重視するようになったことです。3人の子どもたちはそれぞれ高校や大学に進学し、警察官になった子もいれば、教師を目指して勉強中の子もいます。SMILEが私に与えてくれたものに本当に感謝していますし、何よりも子どもたちを誇りに思います。

## インターンシップ体験記

### カンボジアの人たちの笑顔に囲まれて

東北大学教育学部 田村奏恵

カンボジアで行われているSMILE Asia プロジェクトに2019年9月の初めから約1か月間インターンとして参加させていただきました。インターン

シップ中は村への視察に同行させていただいて記録をしたり、学習者やファシリテーターにインタビューをして、その情報をまとめたりしました。

## SMILEの学習者だった私が村の運営委員に!

私にとってSMILEのクラスは本当に楽しい時間でした! もともとおしゃべり好きな性格ですが、識字クラスに通って自信がついたことで、前よりもっと積極的になった気がします。授業では教えてもらえばかりでなく自分で発表する機会もあったので、何度も発表することで勇気がわきました。

そんな授業での様子を見て、なんと先生(ファシリテーター)が私を村の委員に推薦してくれたんです! 村長、副村長とその他メンバーが私を含めて3名の委員会で、村のことをいろいろと話し

合っています。村に貢献できている実感があってとても嬉しいです。

家庭では、SMILE終了後、今までやってきた農業のほかに自宅で食料品店も始めました。仕入れ記録は私が書いています。子どもが学校でもらってくる成績表なども読めるようになり、学校の様子がわかるようになりました。最近はスマートフォンでニュースを読んだりすることもあります。できればもっと勉強して、いろんな教養を身につけたいと思っています。もしまたSMILEのクラスがあれば、絶対参加したいです!



2012年SMILE識字クラス受講者

### リー・ピュロンさん

Ly Phirum  
35歳、3児の母  
クレン・クルッチ (Kraing Krouch) 村

## ファシリテーター

### スン・タリーさん

Sun Thary  
35歳、5児の母  
2012年にクレン・クルッチ (Kraing Krouch) 村で9か月間指導



## 村の女性たちのために働けるのが嬉しいです

最初はファシリテーターを引き受けるつもりなんてまったくありませんでした。当時、私自身も小さな子どもを抱えていて、とても役割を果たせると思えなかったからです。再三の説得に押されて結局引き受けることにしたのですが、この仕事をきっかけに地域行政との関わりができ、会合などにも参加する立場になった今、女性の社会参画の重要性を強く実感するようになりました。あの時熱心に働きかけて私にチャンスを与えてくれた女性局の方には、本当に感謝しています。

いろいろと苦労もありました。ファシリテーターになるためには事前に研修を受ける必要があるのですが、その研修に子連れで行くのがすごく恥ずかしかった

です。でも、自分が同じような境遇の村の女性のお手本になるんだ、という気持ちで努力しました。

クラスでは、日中畑や工場で働く母親の代わりに子守をしているおばあちゃん世代の生徒さんがなかなか教えたことを理解してくれず、困りました。年配の方には全部の文章を覚えるのは大変なので、要点だけ取り出して指導するなどの工夫をしました。私自身もファシリテーターとして、日々成長できたと思います。

SMILE修了後に生徒さんが活躍されている様子を見ると、自分のことのように嬉しいです。私自身のためにも、村の女性たちのためにも、この仕事を引き受けてよかったです。

もぐっとカンボジアに対する心的距離が縮まりました。

未熟な私を長きにわたって支えてくださったACCUやCWDAのスタッフの皆さん、現地でお世話になった方々に厚く御礼申し上げます。皆さんのおかげで得られた経験を活かして今後も邁進していきたいと思っています。



# SMILE Asia プロジェクトを支える多彩な支援の輪

SMILE は皆さまからの温かいご支援により支えられています。ここでは本プロジェクトを応援して下さっている団体様を一部ご紹介いたします。

## 凸版印刷株式会社

2008年から「識字能力の向上」を支援する社会貢献活動として「トッパンチャリティーコンサート」を毎年開催し、このコンサートの収益金を、途上国の女性、特に幼い子どもを育てる母親や妊産婦の識字能力の向上を支援すべく、「SMILE Asiaプロジェクト」の活動資金としてご寄附いただいております。

第13回トッパンチャリティーコン



サート「ことばのしらべ」ではSMILE Asiaプロジェクトとのつながりを企画に活かし、新たに識字教育の軸になる「ことば」を「朗読」というスタイルで皆さまにお楽しみいただけます。日本屈指の「語り手」たちと一流の演奏家による物語の世界を堪能し、この機会に識字教育についても知っていただ

ければと思います。なお、2020年の開催は新型コロナウイルスの感染拡大をうけて延期となりました。延期日程は以下にてご案内予定です。  
<https://www.toppan.co.jp/sustainability/charityconcert/>  
引き続き、新しいスタイルでの夢の饗宴をぜひ楽しみにお待ちください。

## 現地視察

2020年2月、ACCU職員と共に凸版印刷株式会社の皆さまもカンボジアの現地視察にご同行いただきました。現地では実際の識字クラスの様子を視察されたほか、学習者や現地関係者との交流、SMILE卒業生の自宅訪問にも参加されました。長年のご支援がどのように活かされ、カンボジアの女性の生活向上につながっているのかをご体感いただけたことを、大変嬉しく思います。

## 識字能力の向上 ～自分と家族の笑顔のために～

凸版印刷株式会社 広報本部 サステナビリティ推進T 長畑 茂男

カンボジアで行われているSMILE Asiaプロジェクトの現状把握とプロジェクトを現地で支えている様々なステークホルダーへのヒアリングや意見交換を行うため、ACCU様と一緒にモニタリングに同行させていただきました。最初に視察した場所は、プノンベン郊外の村で行われている識字教室でした。識字教室では、 Deng熱の予防に関する保健衛生について先生が黒板とテキストを使い学習者に教えていましたが、字を読み書きできるということは、文化的な生活を送れるということだけでなく、安心・安全に暮らしていくための必要不可欠な能力・知識であると改めて感じました。また旧学習者の自宅にも訪問し、過去の教育経験や識字教室に通った効果などのヒア

リングも行いました。カンボジアの歴史問題、女性が教育を受けられる機会が奪われていることが未だ残っていますが、旧学習者のいずれの方も家族の理解や、プロジェクトを支えている運営スタッフのサポート、そして何より本人の学びたいという意欲、それは自分自身や家族の生活と将来を良くしていきたいという熱意こそが識字能力習得の原動力になっていると強く感じました。旧学習者の方からは、「自分に自信がついたことで、人生が変わりました」「私や家族のために知識を授けてくれて感謝しています」という言葉が大変印象に残っています。また、今回の視察では現地でプロジェクトを支えているCWDA、識字教室が開催されている地区の地区長、村長、先生な

ど様々なステークホルダーの方ともお会いしていろいろと意見交換を行いました。非識字者・準非識字者の方は、まだまだ多く残っているなかで、一人でも多くの方の識字能力の習得に向けて、家庭訪問をするなどのサポートを熱心にされており、多くの関係者によって支えられていることを目の当たりにすることができました。識字能力の向上とは、本人と家族の将来を創造していくことにつながり、その支援をより良くしていくためにACCU様と協働していきたいと思っています。



## 東京小石川ロータリークラブ

今年創立50周年を迎えられた東京小石川ロータリークラブ様は、植林事業や子ども食堂、また青少年を対象にした支援などSDGs（持続可能な開発目標）達成につながる奉仕活動に長年携わってこられました。その一つであるユネスコ識字率向上への取組では、

これまでACCUの識字事業にご支援いただいております。また、創立50周年の事業としてユネスコ平和教育支援チャリティーコンサート小石川櫻花音楽祭を開催予定です。

「誰一人取り残さない(leave no one behind)」をスローガンに掲げたSDGs

の達成に向けて、これから、様々な年代やコミュニティが連携していくことが大切な鍵となります。長年の温かいご支援に感謝をし、今後もより緊密なパートナーシップを図っていきたいと思います。

## 国際ソロプチミスト近江八幡

国際ソロプチミストは1921年にアメリカ、カリフォルニア州オークランドで創設され、国連の諮問機関として承認されている機関です。123の国と地域において、約75,000名の各界で活躍する実業家や専門職の女性たちが人権と女性の地位を高める奉仕活動をしています。その中で、国際ソロプチミスト近江八幡様は長きにわたり世界中の女性と女兒のための教育と生活の向上に関わる奉仕活動をなさっていま

す。同じように女性の識字支援と生活の向上を目標に掲げて事業を実施しているACCUの取組に関心を持っていただき、また、国際ソロプチミスト近江八幡様が2018年に認証30周年を迎えられたことを機に、ACCUに活動支援金をご寄附くださいました。

実はご連絡を頂くまで、国際ソロプチミスト近江八幡の皆さまとちの接点はありませんでしたので、初めは大変驚きました。その後、女性や子ども

たちへのエンパワーメントという共通項、そしてその共通項を持つ団体をずっと探していらしたということを知り、支援先としてACCUを見つけたださったことに感動し感謝申し上げます。ACCUの支援の輪は、目に見えていることだけでなく、どこかで見守ってくださっている方々がいらっしゃることを改めて感じた出来事でした。

ACCUの設立からの思いを継ぐ識字事業は皆さまのご支援により成り立っております。こちらでご紹介の、凸版印刷株式会社様、東京小石川ロータリークラブ様、そして国際ソロプチミスト近江八幡様をはじめとした法人や団体の方々の活動への賛同とご支援、並びに個人の皆さまの長らくの応援の下にこれまでがございました。改めましてお礼申し上げますとともに、これからも皆さまのエールをお届けくださいますよう、よろしくお願いいたします。

## ■SMILE Asia プロジェクト 私たちと共に行えること 日本の皆さんにもっと知ってもらいたい!

### 教育機関関係者の皆さまへ

ACCUでは、世界の識字事情とカンボジアのSMILE Asiaプロジェクトについて知りたい学校や児童・生徒の皆さんを対象に、出前授業や訪問受け入れを随時行っております。図書委員会の活動として古本市を開催して募金活動を行う、自宅でも不要になったものをリサイクルして寄附金に換えるなど、日本の教育現場とSMILEをつなぐ支援の輪は広がっています。未来を担う若い力でアジアの女性の学びを支えるためにどんな活動ができるか、一緒に考え、一緒に取り組んでみませんか。お問い合わせはACCU教育協力部(education@accu.or.jp)まで!

### 企業、個人の皆さまへ

カンボジアのSMILEプロジェクトは個人と企業の皆さまからの寄附によって支えられています。アジア太平洋の女性を応援するためのご支援をお願いします!

郵便振替口座：00120-7-365298

口座名義：ACCU アジアの女性識字振興募金

\*ACCUは公益財団法人です。寄附金控除の対象となります。

\*新型コロナウイルス感染症の拡大防止を鑑み延期となりました。新しい日程は分かり次第ACCUのHPにてお知らせします。

# 20周年を迎えた日韓交流を振り返って

## 日韓教職員交流20周年を迎えて

国際教育交流部 岡野 晃一

ACCUの設立目的でもあるアジア太平洋諸国の人びとの相互理解。それを支える事業の一つが本年20周年を迎えた教職員の国際交流事業です。現在4か国間で実施されている本プログラムの先駆けとなったのが韓国教職員の招へいプログラムです。

ここでは20周年という大きな節目を迎えた日本と韓国の教職員交流プログラムを振り返るとともに今につながる想いを共有したいと思います。

### 開始からの想い

韓国教職員招へいプログラムでは韓国の教職員が日本を訪れ、最初に日本の初等中等教育に関する講義を受け、その後学校現場や教育・文化施設を訪問して日本の教職員・児童・生徒と交流します。この交流を通して、日本と韓国の教職員が相手国に関する理解を深め、お互いに学び合います。さらにその学びを自身の教育現場において還元し、日韓間の持続的な国際交流を育んでいきます。

このように、教職員が自ら経験し、行動していくことで、両国の相互理解と友好の更なる増進につながることを期待し、2001年に韓国教職員招へいプログラムが開始されました。

### 第一回から今へ

第一回目の招へいプログラムは、2001年2月5日から24日までの実に20日間にわたり実施されました。韓国教職員47名、韓国教育部1名、そして韓国ユネスコ国内委員会(KNCU)2名の合計

50名の参加者は、東京を起点に、広島県・佐賀県・鹿児島県の学校を訪れました。

第十回目の2011年に、10年間の評価をまとめたところ、満足度に関して「とても高い」が70.4%、「高い」が25.9%と、ほぼ100%の高評価となりました。

具体的には「学校訪問や児童・生徒たちと対面する機会が多い」「プログラムに多様性が見られ、様々な体験ができる」

「帰国後、韓国国内の多様な科目の先生たちとのネットワークができる」「10年間続いた継続性がある」

といった他の教職員交流プログラムでは得られない経験も挙げられています。

このようにして日韓の教職員の交流は、昨年2019年7月までに、対となる日本教職員韓国派遣プログラムの参加人数を含め、約2,900名にものぼり、多くの学校間交流や姉妹校締結などが実施され、日本と韓国との学校の間で持続的な対話が育まれております。

### 感謝をこめて

20年という年月は昭和、平成、そして令和へと時代も大きく変わる歲月です。その中で、日韓教職員交流プログラムは、20年間絶えることなく続けることができました。これも一つの大きな成果であると、関係者の皆さまには心より御礼申し上げます。

とりわけ、文部科学省並びに韓国教育部、韓国ユネスコ国内委員会(KNCU)、そして教職員を受け入れていただいた学校関係者の皆さまには厚く御礼申し上げます。

次頁では第一回から長年にわたり当プログラム推進にご尽力いただいている韓国ユネスコ国内委員会(KNCU)国際協力チーム長ソ・ヒョンスク氏から、20周年を記念して寄せていただいた振り返りをご紹介します。

## 出会いと対話を通じて

韓国ユネスコ国内委員会(KNCU)国際協力チーム長 ソ・ヒョンスク



ソ・ヒョンスク氏(第一回)

1998年の金大中大統領の国賓として訪日、日本大衆文化第一次開放、日韓共同宣言「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」という流れの中、2000年に中曽根文部科学大臣が訪韓され、文龍麟教育部長官に日韓両国の教職員交流を通じた教授法の共有と日韓友好推進のための事業を提案したことから、日韓教職員交流は始まりました。

当初は、学校現場訪問を通じた両国の教育課題・教育システムの相互理解、日

韓両国文化の相互理解、教職員間ネットワークの構築、日韓両国間の持続的な友好推進を目的として開始されました。その後、訪日プログラムでは環境教育、国際理解教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、姉妹校マッチング促進が、訪韓では同じくESD、ユネスコスクール理解、地球市民教育(GCED)が追加され今日に至っています。

20年の歩みは図に示す通りですが、訪日は34都道府県、訪韓ではチェジュを除くすべての道・特別市・広域市を訪問し、日韓両国の幅広い地域の教職員の交流が実現しています。姉妹校締結を含む学校間の交流、教職員・学生間の人的交流、ホームビジットを通じた個人間の交流など数多くの出会いと絆が育まれました。東日本大震災発生時には過去にプログラム参加した韓国の110名の教職員が教育復興協力を携わり、さらに30名



第一回韓国教職員招へいプログラム(2001年2月5日～24日)

私たちは韓国のことも日本のこともすべてを知ることはできません。相互理解は似ているところ、違うところを「理解」することから始まります。これは「出会いと対話」を通じて可能です。その中心には「ひと」がいて、教育の中心には「教職員」がいます。出会いと対話を通じて日韓両国の理解を深め、平和で持続可能な世界、共に生きる世界を作っていきましょう。

ソ・ヒョンスク氏のメッセージ

の教職員が2012年に気仙沼を訪問いたしました。絆は間違いなく深まっています。

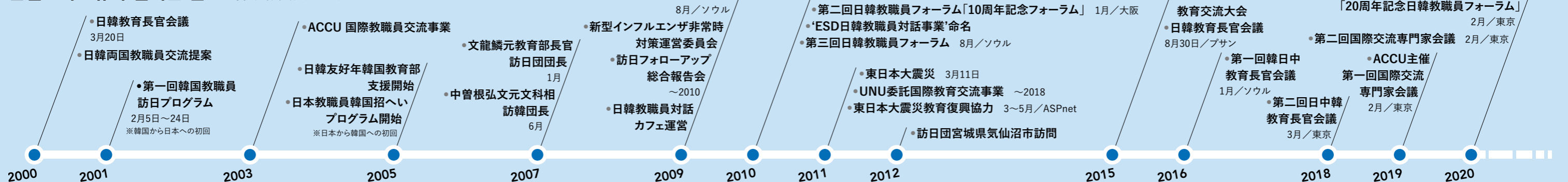
最後に、私の想いを皆さんにお伝えし、日韓教職員交流の更なる発展を祈念したいと思います。



※新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2020年1月31日未明にWHO(世界保健機関)が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」(PHEIC)に該当すると宣言したことにより、2020年2月5日～8日実施予定の韓国教職員招へいプログラム中止を決定いたしました。

### 한일교사교류가 걸어온 길

日韓教職員交流の歩み ※KNCU提供の資料です。(一部ACCU加筆修正)



# ACCU 職員、岐阜の学校へ

この冬、ACCU 職員が岐阜県の以下2校で行った活動の紹介です。



## 岐阜県立大垣北高等学校

### 探求学習のプレゼンテーションに参加しました!

2020年2月10日、大学生4名と岐阜県立大垣北高等学校を訪問しました。4名の学生はいずれも、ACCUの事業を通じて高校模擬国連国際大会(ニューヨーク)を経験しています。大垣北高等学校の生徒たちは、高校1年生の1年間をかけて岐阜県をフィールドに「課題を

見(What)し、「原因を探究(Why)し、「解決策を提案(How)」するという3つのポイントを探求し、この日、学習の集大成であるプレゼンテーションを行いました。

大学生からは、「模擬国連や高校時代の探求活動によって、興味のある分野に出会えた。その分野でのニュース等を目にしたときに、世の中のジレンマに気がつくことができ、自分の成長を感じられる」、「模擬国連の活動を通していろいろな視点からものを考えて分析する力がついた。いろいろなデータを比較して、思い込みではなく根拠に基づいて判断してほしい」といったアドバイスが送られ、生徒たちは身を乗り出して熱心に話を聞

いていました。答えのない問いを自ら見つけ出し、解決策を提案するという簡単ではない課題に真剣に取り組んだ高校生も、アドバイスを自分たちの言葉で語り成長を続ける大学生も、どちらも頼もしく思いました。模擬国連の経験が学生の成長や更なるチャンスの獲得にポジティブに影響していることを再確認できた嬉しい機会となりました。

国際教育交流部 天満 実嘉

<b>DATA</b>
開催日: 2020年2月10日
参加者: 325名
開催場所: 岐阜県



高校生にアドバイスを送る高校模擬国連経験の大学生

## 岐阜県高山市立朝日中学校

### 出前授業～「海外とのつながりがもたらすこと」～

2020年1月29日、岐阜県高山市立朝日中学校にて出前授業を行いました。

国際的な視野に立って発想・行動できる生徒を育成する目的で、「総合的な学習の時間」に設けられた機会です。

牛丸千枝校長先生からこのご依頼を受けてから、私はどのような授業にするか長い間悩みました。そして、自分自身が長年携わってきた国際交流を切り口に、私と参加者の生徒や先生方の経験を共有することで、「海外とのつながりがもたらすこと」を考えていく時間にすることにしました。

この交流を通して感じたのは、私が中学生だったころに比べて、今は海外の人たちと直接関わる機会があり、極端に偏った見方をしている印象がないことでした。その一方で、メディアによってつくられる国のイメージが強く影響していることもよくわかりました。

最後に生徒会長の3年生が「グローバ

ル化により、様々なことで海外に触れられるが、まだまだ直接的な経験が少なく、人と人のつながりが不足していると思った。また、海外の国に対して、一つのイメージや偏見を持った見方をしていたが、いろいろな経験を通じて、国や相手の様々な点を見て、事実を知って、自分がどのように行動していくか考えていきたい」と伝えてくれました。

海外の人や報道に触れたときの構えと

して、一つのあり方をつかみ、一つの経験として心に受け止め、このような言葉を紡ぎ出してくれたことが胸に響きました。

国際教育交流部 伊藤 妙恵

<b>DATA</b>
開催日: 2020年1月29日
参加者: 51名
開催場所: 岐阜県

高山市立朝日中学校の皆さんと授業のあとで



## ACCU 活動メモ

2020年1月～5月 ①実施期間 ②主催、共催団体名 ③開催場所 ④参加国、参加者数

### ハッピースクールプロジェクト 最終ワークショップ

①1月11日(土) ②ユネスコ・バンコク事務所、ACCU ③東京 ④24名

### 文化遺産セミナー開催

①1月18日(土) ②ACCU ③ACCU、奈良市教育委員会 ④300名

### Collective Learning and Action for Sustainable Community Development 第二回ワーキンググループ会合

①1月20(月)～22日(水) ②ACCU、BRAC ③ Bangladesh, Dacca ④21名(インド、フィリピン、タイ、中国)

### 「総合的な学習の時間」出前授業

詳細…P10  
①1月29日(水) ②高山市立朝日中学校 ③岐阜県高山市 ④51名

### 岐阜県立大垣北高等学校の探求学習のプレゼン発表会

詳細…P10  
①2月10日(月) ②岐阜県立大垣北高等学校・岐阜県教育委員会 ③岐阜県大垣市 ④325名

### SMILE Asiaプロジェクト カンボジア視察

詳細…P6  
①2月10日(月)～14日(金) ②ACCU、CWDA、凸版印刷株式会社 ③カンボジア、プノンペン ④約10名

## ACCU INFORMATION

### ACCUの設立50周年のロゴが完成いたしました。

ACCUは来年2021年に設立50周年を迎えます。

昭和、平成、そして令和へと流れる50年という長い年月は、歴史的にも多くの変革を伴い、現代の多様な価値感へとつながっています。



変わらぬ思いを示す、落ち着きのある熟成の赤紫、そこに差し込む黄色は未来につながる～輝く光。

今後、紙面や媒体でも利用してまいります。

## ACCU INFORMATION

### 今号より! 持続可能な社会への貢献

ACCUnews利用紙や国内発送の封筒は環境にやさしいFSC認証制度適用用紙を利用しています! また、海外発送分は昨年度事前のご案内を経まして、今年度よりメールでのお届けとしました。新年度のACCUは事業での活動とともに、管理部門におきましても引き続き持続可能な社会の実現のため、その一助となる行動を実現していきます。



## ACCU 50th 来年の50周年に向けましてACCU STORYや試みをご案内していきます。

### ACCUのシンボル・マーク



皆さま、ACCUのロゴ(シンボル・マーク)に込められた意味をご存じでしょうか? このロゴは円の中に線が二本ある「平面」に見えますが、その意味を知ることで奥行きが生み出されます。視覚を変化させる不思議な体験を、右記、ロゴのデザインをしてくださいましたグラフィック・デザイナーの道吉剛氏の当時の解説文にてご体験ください。

また、デザインに込められた想いをACCUのこれまで、そしてこれからの活動に重ねてご覧ください。

### ●ACCUのシンボル・マークについて

このシンボル・マークは、地球の外形に原型を求めています。内側の円弧は赤道と黄道を示しています。この2本の円弧は、地球の心臓と赤道を結ぶ延長線よりやや上からのぞんだ視点で作図し、視覚上のバランスをとっています。これらの円と線で示される地球上の地域には、ACCUの主な活動範囲であるアジア・パシフィックの国々が、含まれています。

すなわち、ACCUの平和的、文化的な目的が、参加国の人々の協働によって建設的に推進される対象域を示すものです。

また、このシンボル・マークは、見る人にグローバルな視点を提供することを暗示しています。